

## お知らせ

記者発表資料

令和5年11月13日

### ■同時発表先

合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、岡山県政記者クラブ、広島県政記者クラブ、山口県政記者会、山口県政記者クラブ、山口県政滝町記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

# 渇水対策本部の設置について

～江の川水系、佐波川水系、高梁川水系で渇水調整を実施～

中国地方整備局管内の一級河川では、9月以降少雨が継続していることにより渇水傾向となっています。これにともない、ダム貯水量も低下しています。

佐波川水系においても、平年に比べて降水量が少ない状況が続いているため、11月7日（火）に佐波川渇水調整協議会を開催し、11月13日（月）から取水制限を実施するとともに、山口河川国道事務所に渇水対策支部を設置しました。

高梁川水系においても、平年に比べて降水量が少ない状況が続いているため、11月7日（火）に高梁川水系水利用協議会 第1回渇水調整会議を開催し、11月14日（火）から取水制限を実施するとともに、岡山河川事務所に渇水対策支部を設置する予定です。

また、江の川水系においても、平年に比べて降水量が少ない状況が続いているため、9月4日（月）に江の川渇水調整協議会（第1回幹事会）を開催し、9月4日（月）から取水制限を実施しており、三次河川国道事務所に渇水対策支部を設置しています。

このような状況のなか、11月2日に広島地方気象台が発表した中国地方の「向こう1ヶ月の天候の見通し」では、降水量はほぼ平年並みと見込まれていますが、渇水が深刻化することも予想されます。

このため、国土交通省中国地方整備局では、適切な渇水対策を円滑に行うことを目的とする「中国地方整備局渇水対策本部」を11月13日（月）に設置しました。

### <問い合わせ先>

中国地方整備局 河川部 河川環境課

082-221-9231（代表）：（平日・昼間）

【担当】河川部 河川環境課長 まつもと 松本 みちあき 倫明（内線3651）

河川部 河川環境課長補佐 こじま 小島 とおる 亨（内線3652）



## ◇現在の取水制限状況について

中国地方整備局管内の一級河川における取水制限等の状況は下記のとおりです。

### 【取水制限】

#### ○江の川水系

- ・上下川における既得用水（農水）の取水を80%削減する。
- ・馬洗川及び江の川（三次市）における既得用水（農水）の取水を10%削減する。
- ・向江田取水地点における上水の取水を10%削減する。
- ・ダム地点における確保流量について、河川環境の保全に必要な最低限の流量（0.80m<sup>3</sup>/s）とする。
- ・南畑敷地点における確保流量について、河川環境の保全に必要な最低限の流量（2.21m<sup>3</sup>/s）とする。
- ・尾関山地点における確保流量について、10%を削減する。

#### ○佐波川水系 11月13日9時より下記節水を開始

- ・許可水利量に対して10%節水

#### ○高梁川水系

- ・11月14日に下記取水制限を開始（第1次取水制限）

◆上水道（実績取水量から）	2%
◆工業用水（実績取水量から）	5%
◆農業用水（実績取水量から）	20%
ただし、畑または酪農に使用するもの（実績取水量から）	5%

## ◇渇水調整協議会等の開催経緯

#### ○江の川

- ・9月4日（月） 江の川渇水調整協議会（第1回幹事会）
- ・9月13日（水） 江の川渇水調整協議会（第2回幹事会）
- ・11月2日（木） 江の川渇水調整協議会（第3回幹事会）開催

#### ○佐波川

- ・10月25日（水） 佐波川渇水調整協議会（第1回幹事会）開催
- ・11月7日（火） 佐波川渇水調整協議会開催

#### ○高梁川

- ・11月7日（火） 高梁川水系水利用協議会 第1回渇水調整会議開催

## ◇現在の渇水対策支部設置状況

中国地方整備局管内の事務所における渇水対策支部設置状況は下記のとおりです。

- 三次河川国道事務所（江の川） 9月4日（月）設置
- 山口河川国道事務所（佐波川） 11月13日（月）設置
- 岡山河川事務所（高梁川） 11月14日（火）設置予定

## ◇各水系の状況

中国地方の一級河川の降雨状況及び中国地方整備局が管理しているダムの貯水状況は別紙のとおりです。

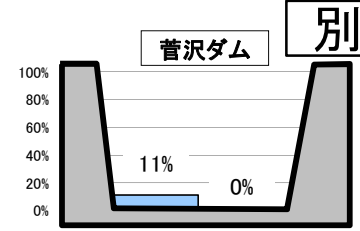
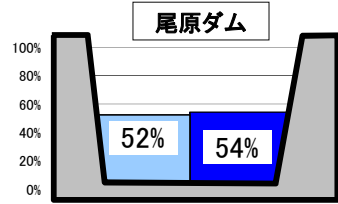
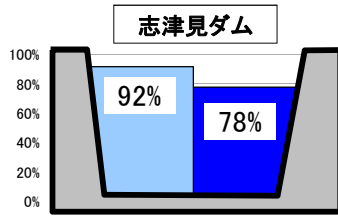
## ◇渇水情報について

中国地方の渇水状況を広くお知らせし、限りある水資源を大切に使うため、主に一級河川のダム貯水状況などを中国地方整備局ホームページ(<http://www.cgr.mlit.go.jp>)に掲載します。

# 中国地方の直轄ダム貯水量状況 (令和5年11月13日 0:00時点)



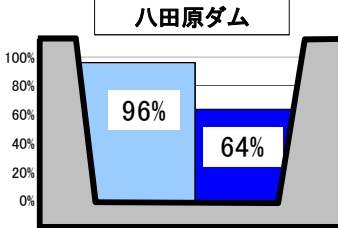
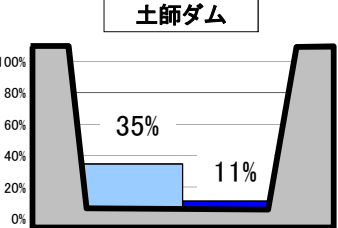
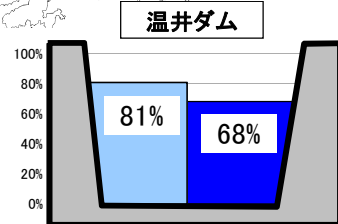
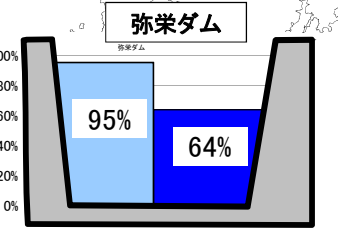
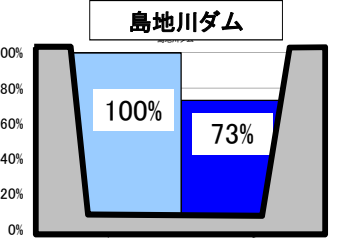
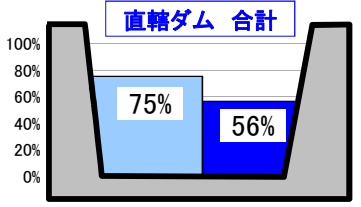
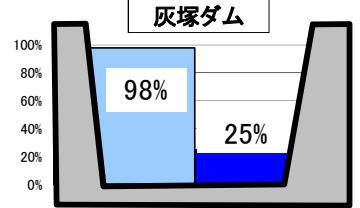
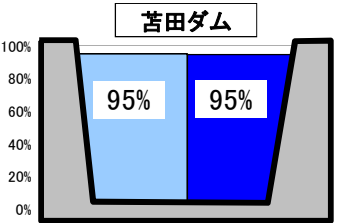
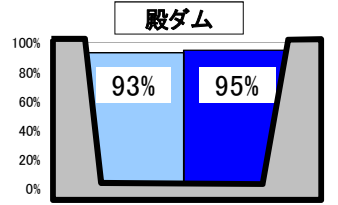
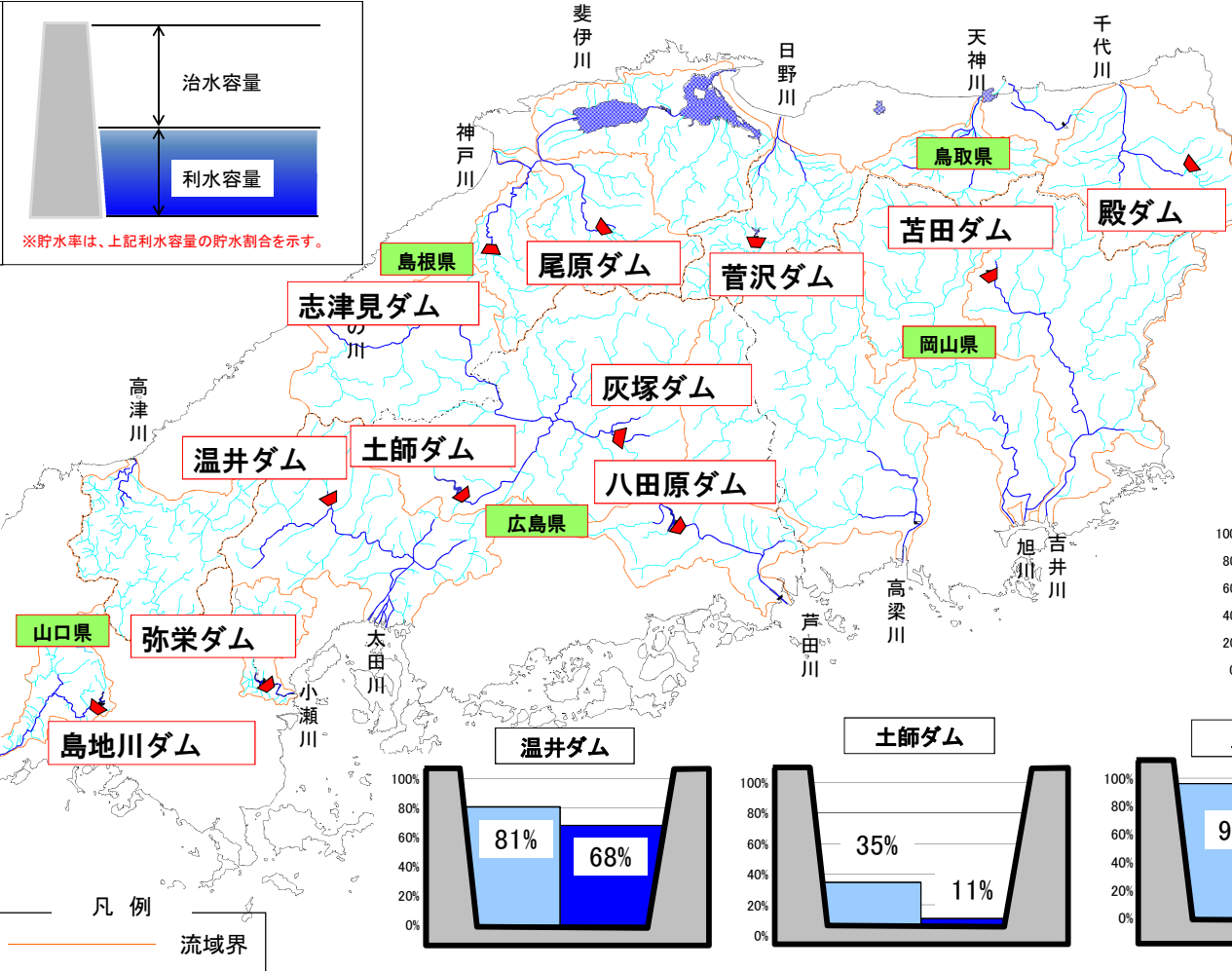
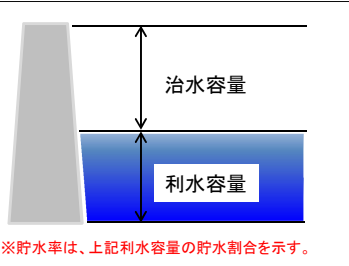
別紙



### 凡例

平年貯水率 (Average Storage Rate)  
現在貯水率 (Current Storage Rate)

\*尾原ダム、殿ダム H25～R3の貯水量との比  
\*その他のダム H24～R3の平均貯水量との比



凡例  
流域界 (Basin Boundary)

## 向こう1か月の天候の見通し 中国地方（11/04～12/03）

### 予報のポイント

- 寒気の影響を受けにくく、暖かい空気が流れ込みやすい時期があるため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

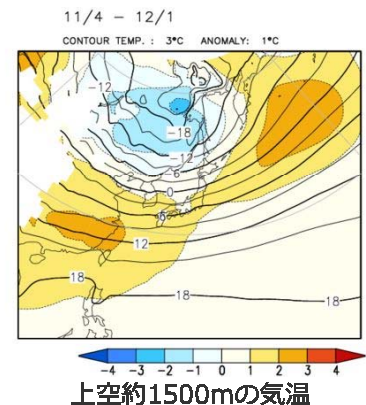
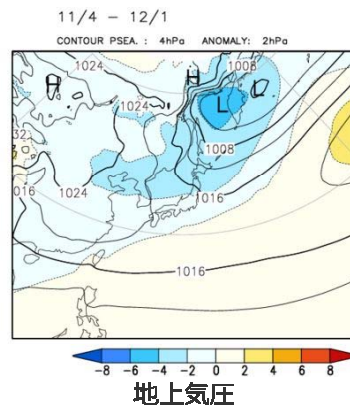
### 1か月の平均気温・降水量・日照時間

		平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
中国地方	山陰	低10 並30 高60% 高い見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み
	山陽		少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率（%）です				

### 数値予報モデルによる予測結果

1か月平均の地上気圧（左図）は、オホーツク海を中心に日本海にかけて平年より低く、北日本を中心に低気圧や前線の影響を受けやすいでしょう。

上空約1500mの気温（右図）は、中国大陸と日本のはるか東を中心に日本付近も平年より高い見込みです。中国地方は、寒気の影響を受けにくく、暖かい空気が流れ込みやすい時期があるでしょう。



季節予報では、よく似た初期値から出発した多数の数値予報結果を利用します（アンサンブル予報）。多数の結果の平均（上図など）から大気の状態を判断し、また結果のパラッキ具合から予報の信頼度や確率を計算します。

	平均気温（1週目） 11/04～11/10	平均気温（2週目） 11/11～11/17	平均気温（3～4週目） 11/18～12/01
週別の天候	天気は数日の周期で変わりますが、期間のはじめは、低気圧や前線の影響で雨の降る日があるでしょう。	山陰では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。山陽では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	山陰では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。山陽では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
中国地方	低10 並10 高80% <b>高い見込み</b>	低20 並50 高30% <b>平年並の見込み</b>	低20 並40 高40% <b>平年並が高い見込み</b>
数値は予想される出現確率 (%) です	<p>平均気温（1週目）</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%) 以上 平年並も40% 以上</p>	<p>平均気温（2週目）</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%) 以上 平年並も40% 以上</p>	<p>平均気温（3～4週目）</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%) 以上 平年並も40% 以上</p>

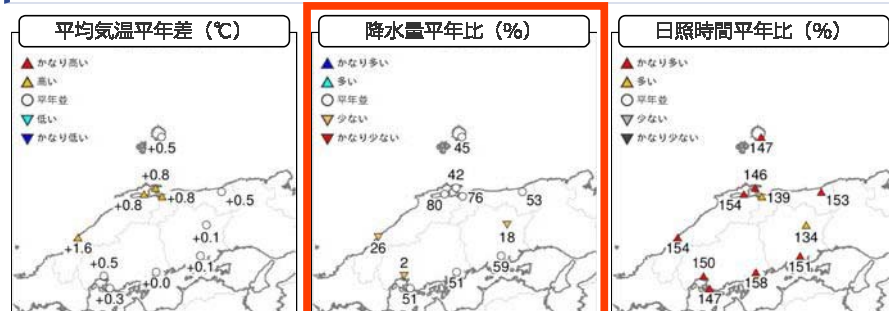
明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報 (<https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>) を参照してください。

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。

「平年並」がどの程度の値になるのかについては、参考資料 (<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/chugoku1.html>) をご覧ください。

文章による解説については、確率の大きさに応じた言葉で表現しています。詳しくは本資料末尾の「[参考（確率予報の解説）](#)」をご覧ください。

最近1週間の天候経過



(実況) 10/26～11/01	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
中国地方	+0.5℃ (平年並)	46% (平年並)	148% (かなり多い)
山陰	+0.8℃ (高い)	54% (平年並)	149% (かなり多い)
山陽	+0.2℃ (平年並)	36% (平年並)	148% (かなり多い)

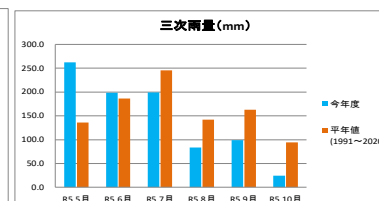
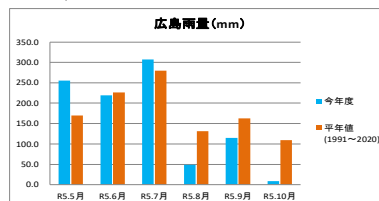
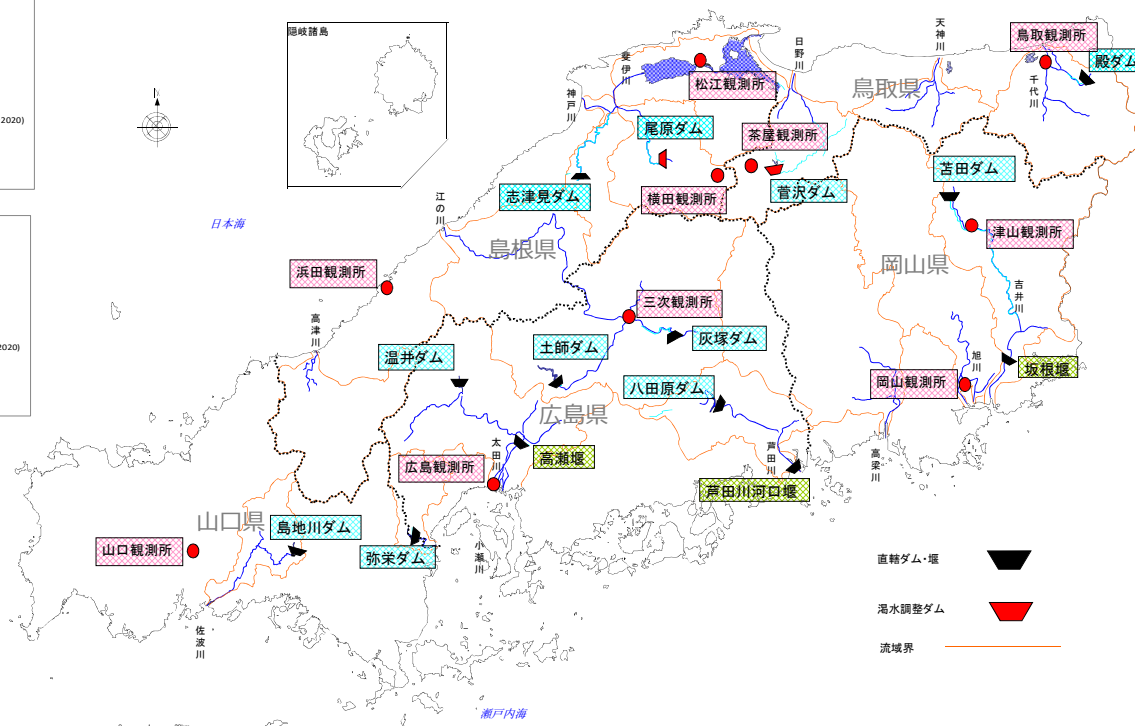
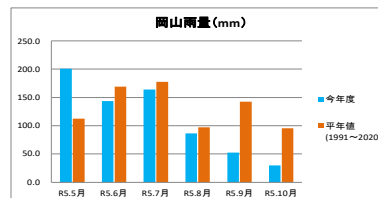
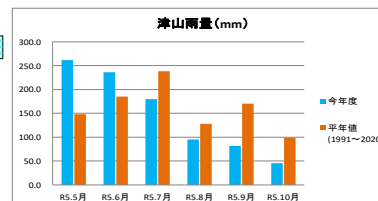
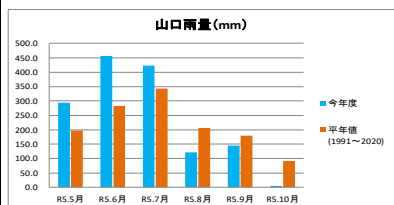
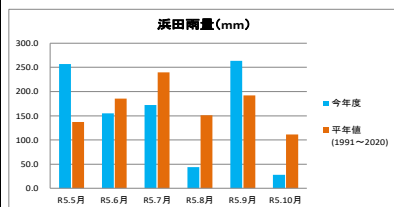
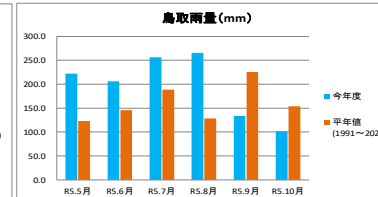
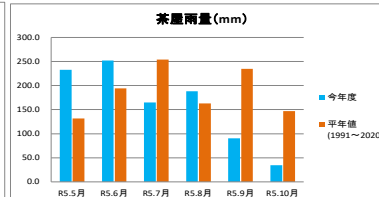
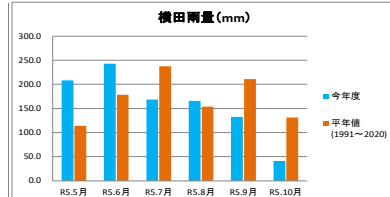
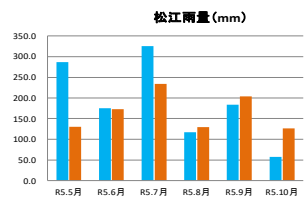
参考

確率予報の解説 (ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています)

出現確率 (低い (少ない) : 平年並 : 高い (多い) )	解説
高い (多い) 確率が50%以上	高い (多い) 見込み
(20 : 40 : 40)	平年並が高い (多い) 見込み
平年並の確率が50%以上	平年並の見込み
(40 : 30 : 30) (30 : 40 : 30) (30 : 30 : 40)	ほぼ平年並の見込み
(40 : 40 : 20)	平年並が低い (少ない) 見込み
低い (少ない) 確率が50%以上	低い (少ない) 見込み

中国地方の降雨・降雪状況(R5.10.31時点)

	R5.5～R5.10降雨量 合計の平年比	R5.10降雨量の 平年比
鳥取	123%	66%
茶屋	86%	23%
横田	94%	31%
松江	115%	46%
浜田	91%	25%
津山	93%	46%
岡山	85%	31%
三次	105%	25%
広島	103%	8%
山口	126%	5%



■既往の主な渇水

年次	水系名	時期	制限期間	最大取水制限率	地整本部	
昭和48年度	芦田川	夏期	昭和48年7月～昭和48年9月	59日間	上水32%、工水78%、農水76%	-
	太田川	夏期	昭和48年7月～昭和48年9月	52日間	上水10%、工水40%	
	小瀬川	夏期	昭和48年7月～昭和48年9月	49日間	上水5%、工水40%	
昭和52年度	小瀬川	秋期	昭和52年10月～昭和53年1月	115日間	上水5%、工水50%	-
昭和53年度	芦田川	夏期	昭和53年8月～昭和53年9月	50日間	上水40%、工水86%	9/7~10/2 26日間
	太田川	秋期	昭和53年9月～昭和53年9月	10日間	上水10%、工水10%	
	小瀬川	夏期	昭和53年8月～昭和53年10月	61日間	上水10%、工水55%	
	佐波川	夏期	昭和53年8月～昭和53年10月	62日間	上水10%、工水50%	
昭和57年度	芦田川	夏期	昭和57年6月～昭和57年7月	16日間	上水10%、工水82%、農水56%	7/3~7/19 17日間
	太田川	夏期	昭和57年7月～昭和57年7月	9日間	上水20%、工水40%	
	小瀬川	夏期	昭和57年7月～昭和57年7月	12日間	上水5%、工水55%	
	吉井川	夏期	昭和57年7月～昭和57年7月	7日間	上水20%、工水20%	
昭和59年度	太田川	秋期	昭和59年11月～昭和59年12月	21日間	上水5%、工水10%	11/13~12/6 24日間
昭和61年度	小瀬川	冬期	昭和61年12月～昭和61年12月	14日間	上水5%、工水10%	-
昭和62年度	小瀬川	冬期	昭和63年2月～昭和63年3月	22日間	上水5%、工水10%	-
平成元年度	小瀬川	冬季	平成2年1月～平成2年2月	23日間	上水5%、工水40%	-
平成2年度	斐伊川	夏期	平成2年8月～平成2年8月	6日間	番水実施	-
平成4年度	太田川	夏期	平成4年7月～平成4年7月	4日間	上水10%、工水20%、農水10%	6/30~7/21 22日間
平成6年度	斐伊川	夏期	平成6年7月～平成6年9月	59日間	上水20%、工水20%、農水22%	7/14~H7.5/11 302日間
	吉井川	夏期	平成6年7月～平成6年9月	71日間	上水30%、工水30%、農水70%	
	旭川	夏期	平成6年8月～平成6年9月	45日間	上水20%、工水30%、農水50%	
	高梁川	夏期	平成6年7月～平成6年12月	117日間	上水50%、工水70%、農水90%	
	芦田川	夏期	平成6年7月～平成7年5月	300日間	上水30%、工水68%、農水90%	
	太田川	夏期	平成6年7月～平成6年10月	98日間	上水27%、工水60%、農水60%	
	小瀬川	冬期	平成6年12月～平成7年5月	144日間	上水10%、工水55%	
	佐波川	秋期	平成6年9月～平成7年4月	227日間	上水20%、工水20%、農水20%	
平成7年度	芦田川	夏期	平成7年8月～平成8年3月	222日間	上水10%、工水60%、農水50%	-
平成8年度	芦田川	夏期	平成8年8月～平成8年9月	39日間	上水5%、工水50%、農水50%	-
平成14年度	旭川	秋期	平成14年9月～平成14年11月	70日間	上水10%、工水20%、農水30%	11/25~H15.2/26 94日間
	高梁川	秋期	平成14年9月～平成14年12月	102日間	上水10%、工水20%、農水30%	
	芦田川	秋期	平成14年11月～平成15年3月	104日間	工水30%、農水40%	
平成17年度	日野川	夏期	平成17年6月～平成17年7月	24日間	上水35%、工水35%、農水35%	7/1~7/15 15日間
	高梁川	夏期	平成17年7月～平成17年7月	4日間	上水10%、工水10%、農水30%	
平成19年度	佐波川	冬期	平成19年1月～平成19年4月	89日間	上水10%、工水10%、農水10%	12/20~2/5 48日間
	日野川	春期	平成19年5月～平成19年7月	45日間	上水20%、工水20%、農水20%	
	佐波川	秋期	平成19年11月～平成20年2月	87日間	上水30%、工水30%、農水30%	
	高梁川	冬期	平成19年12月～平成20年1月	20日間	上水5%、工水5%、農水10%	
	小瀬川	冬期	平成20年1月～平成20年1月	23日間	上水5%、工水10%	
平成20年度	江の川	夏期	平成20年8月～平成20年12月	111日間	農水70%	8/22~10/8 48日間
	高梁川	夏期	平成20年8月～平成20年11月	75日間	上水5%、工水10%、農水20%	
	芦田川	秋期	平成20年11月～平成21年3月	118日間	工水20%、農水20%	
平成21年度	日野川	春期	平成21年5月～平成21年6月	33日間	上水20%、工水20%、農水20%	6/2~7/13 42日間
	芦田川	夏期	平成21年6月～平成21年7月	51日間	工水30%、農水30%	
平成22年度	小瀬川	冬期	平成22年12月～平成23年3月	92日間	上水5%、工水20%	12/21~3/23 93日間
	佐波川	秋期	平成22年10月～平成23年2月	123日間	上水30%、工水30%、農水30%	
平成23年度	芦田川	春季	平成23年4月～平成23年5月	29日間	工水20%、農水20%	-
平成25年度	日野川	春期	平成25年5月～平成25年6月	34日間	上水5%、工水5%、農水20%	5/21~7/9 50日間
	斐伊川	春期	平成25年5月～平成25年7月	43日間	基準点確保流量70%減	
	芦田川	夏期	平成25年6月～平成25年6月	10日間	工水20%、農水20%	
平成26年度	斐伊川	夏期	平成26年7月～平成26年8月	25日間	基準点確保流量50%減	-
	斐伊川	春季	平成27年5月～平成27年6月	42日間	基準点確保流量40%減	-
平成27年度	斐伊川	夏期	平成27年7月～平成27年9月	33日間	基準点確保流量50%減	-
	斐伊川	夏期	平成28年7月～平成28年9月	33日間	基準点確保流量50%減	-
平成28年度	斐伊川	夏期	平成29年6月～平成29年9月	75日間	基準点確保流量40%減	-
令和元年度	日野川	春期	令和元年5月～令和元年7月	57日間	上水10%、工水10%、農水10%	6/13~7/26 44日間 8/19~9/6 19日間
	斐伊川	夏期	令和元年6月～令和元年9月	86日間	基準点確保流量40%減	
	千代川	夏期	令和元年8月～令和元年10月	44日間	農水30%	
令和2年度	斐伊川	夏期	令和2年6月～令和2年6月	5日間	基準点確保流量30%減	-
	佐波川	冬期	令和2年12月～令和3年2月	56日間	上水10%、工水10%、農水10%	
令和4年度	日野川	春期	令和4年5月～令和4年9月	99日間	上水15%、工水15%、農水15%	6/24~9/1 70日間
	斐伊川	夏期	令和4年6月～令和4年7月	20日間	基準点確保流量40%減	
	佐波川	夏期	令和4年7月～令和4年8月	53日間	上水20%、工水20%、農水20%	
	旭川	夏期	令和4年7月～令和4年9月	89日間	上水20%、工水30%、農水50%	
	芦田川	冬期	令和5年3月～令和5年4月	29日間	工水20%、農水20%	